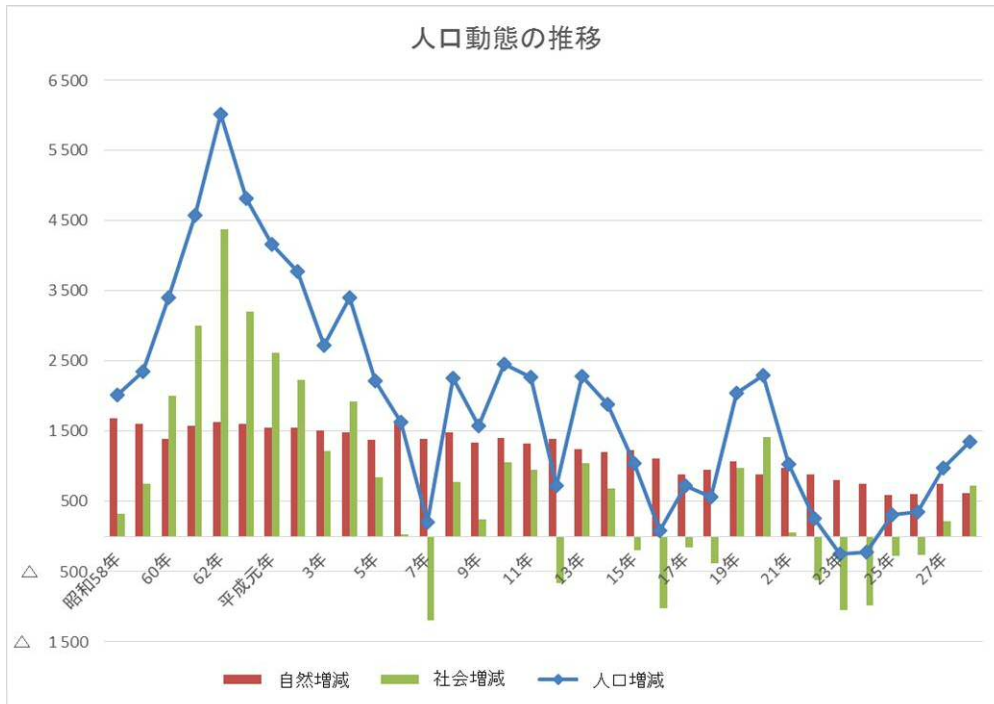
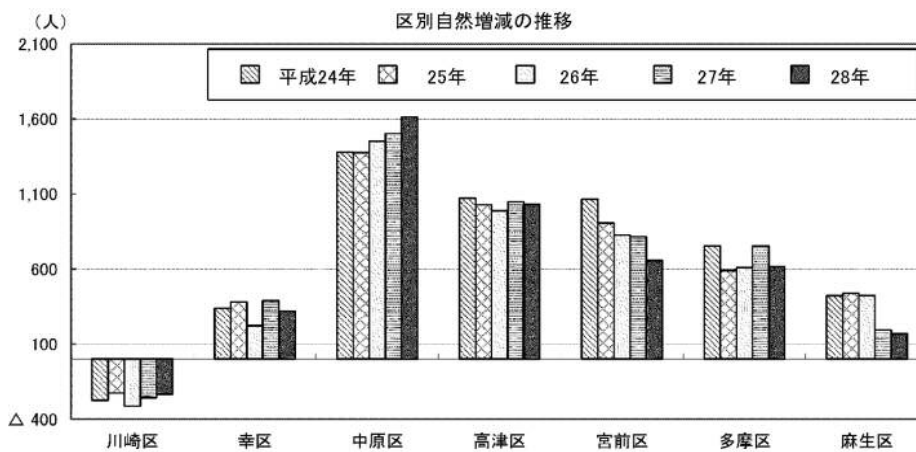


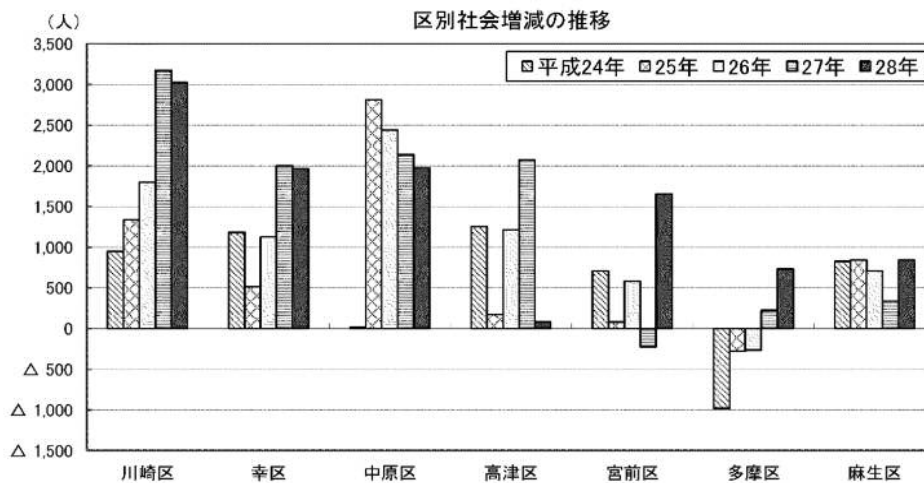
①人口の増減と各区の自然増減・社会増減



資料:川崎市統計情報「川崎市の人口動態」

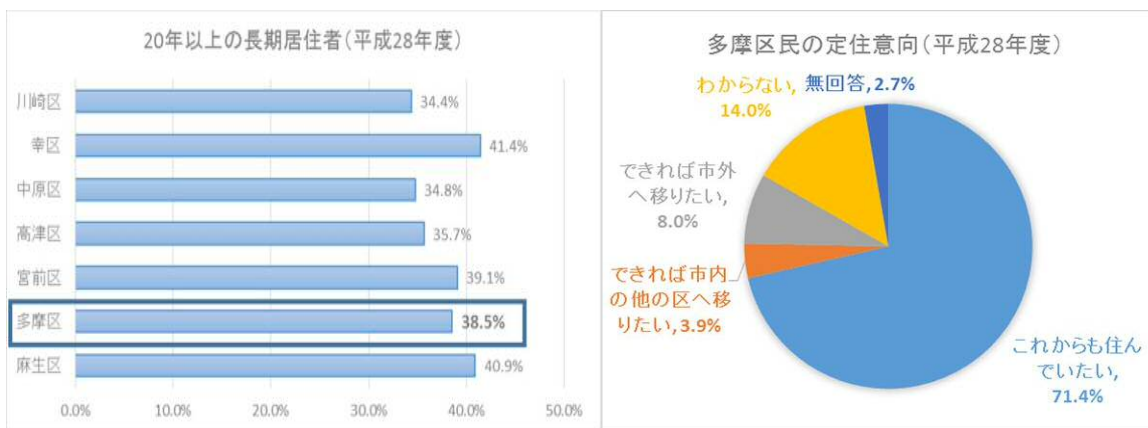
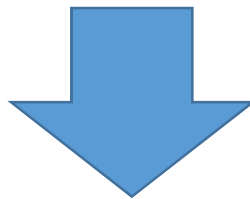
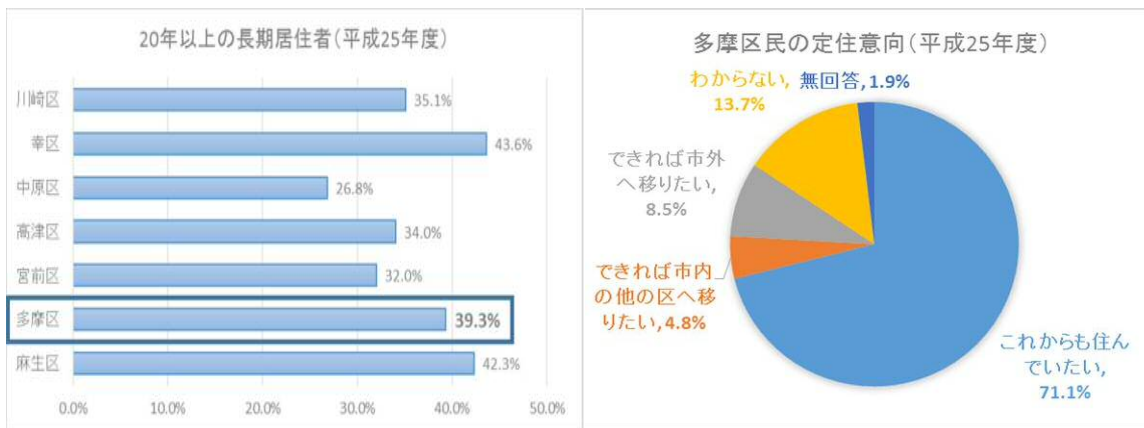


資料:川崎市統計情報「川崎市の人口動態」



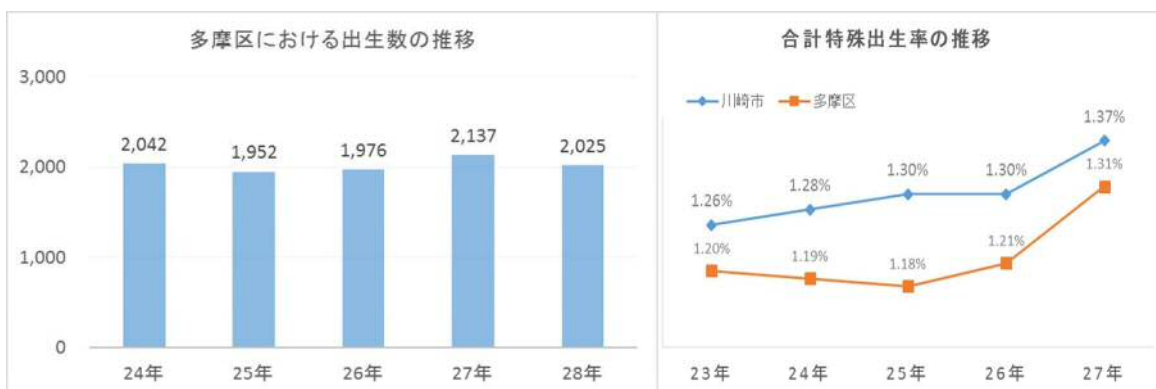
資料:川崎市統計情報「川崎市の人口動態」

## ② 居住年数と定住意向



資料:「平成25年度 かわさき市民アンケート報告書」  
「平成28年度 かわさき市民アンケート報告書」

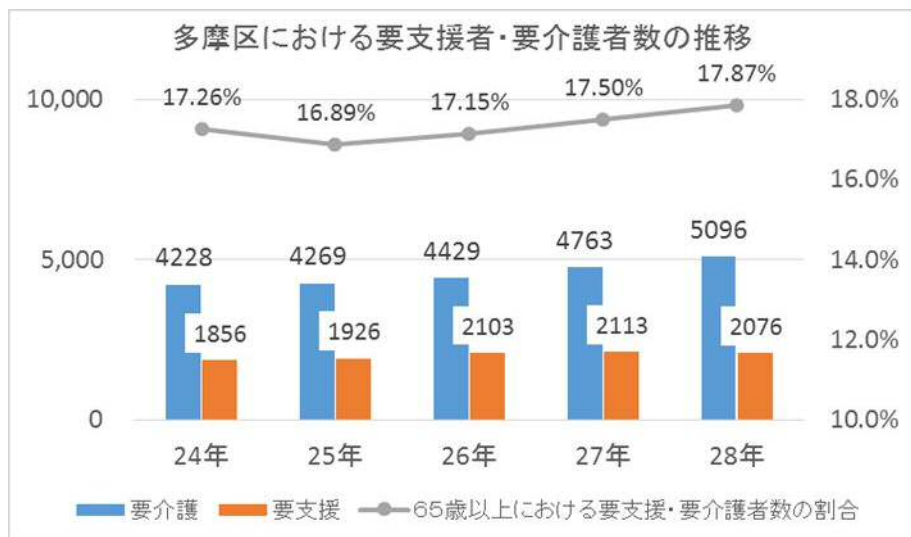
## ③ 出生数及び合計特殊出生率



資料:川崎市統計情報「川崎市の人口動態」

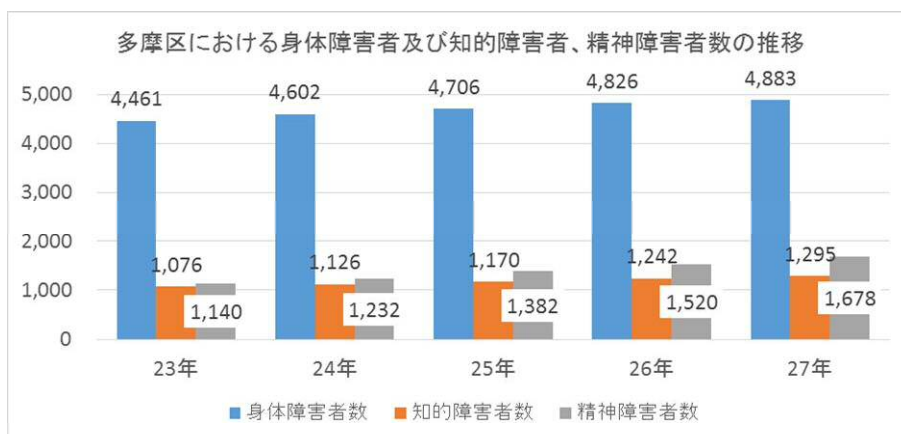
資料:神奈川県衛生統計年報

#### ④要支援者・要介護者数の推移



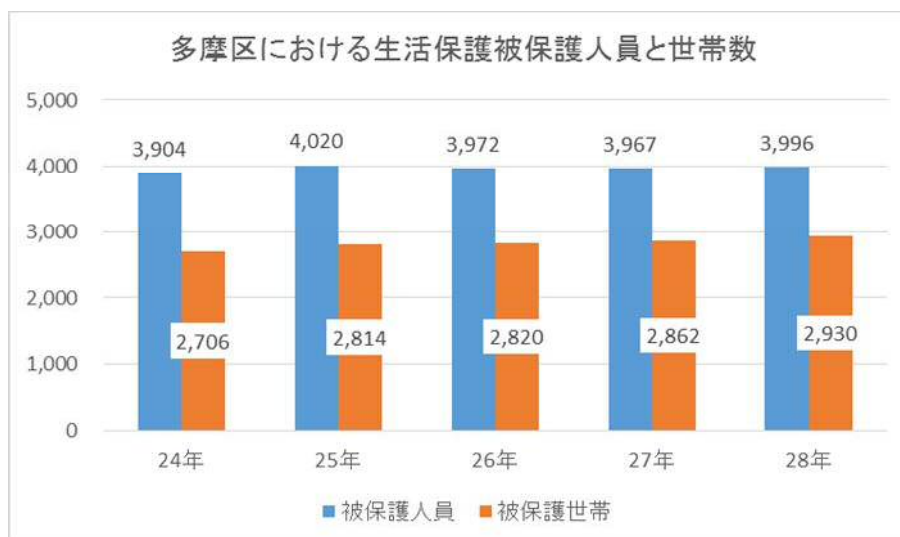
資料: 川崎市統計書「要介護認定の状況」(各年度3月31日現在)  
川崎市統計情報「町丁別年齢別人口」(各年3月末日現在)

#### ⑤身体障害者数・知的障害者数・精神障害者数



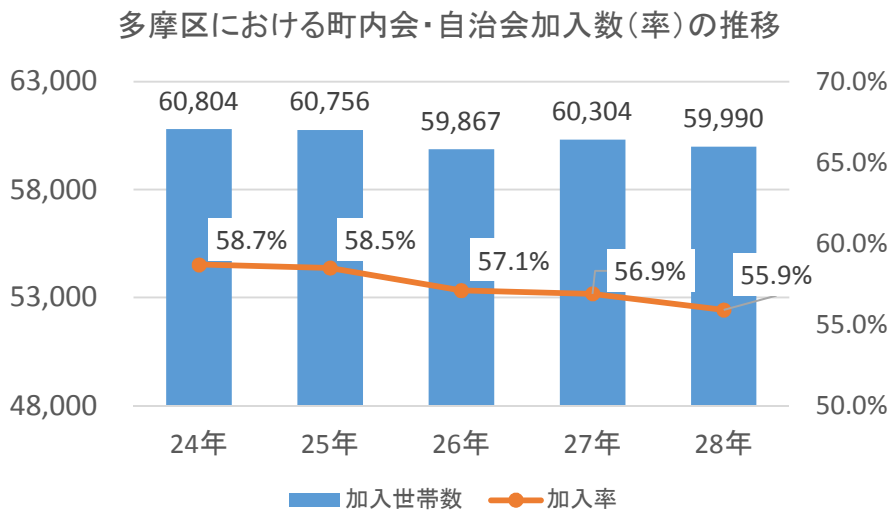
資料: 川崎市健康福祉年報

#### ⑥生活保護被保護人員・世帯数



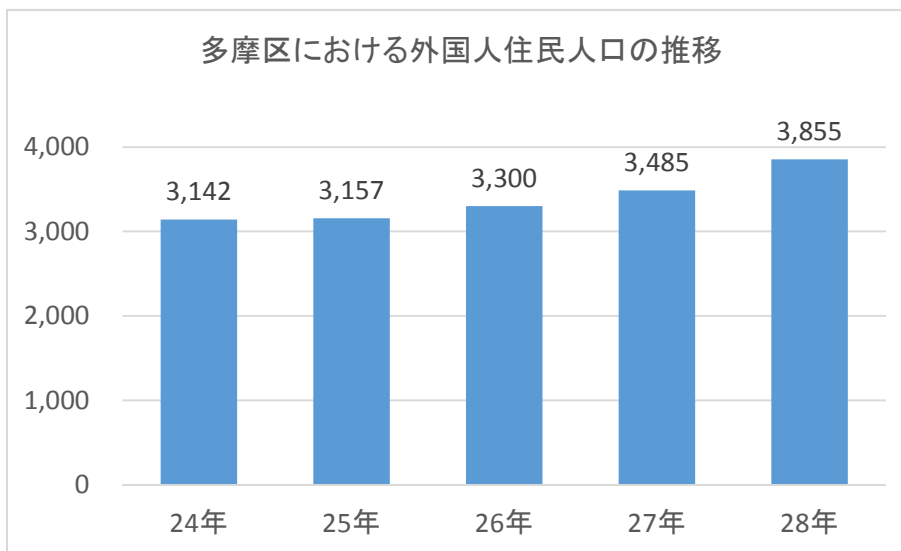
資料: 川崎市統計書「生活保護の概況」

## ⑦町内会・自治会への加入



資料:川崎市統計書「住民組織加入状況」(各年度4月1日現在)

## ⑧外国人住民人口



資料:川崎市統計書「管区別年齢別外国人住民人口」(各年度3月末日現在)

## ⑨医療施設

年・保健所別	総数		病院		一般診療所				歯科診療所 施設数
	施設数	病床数	施設数	病床数	施設総数	有床		無床	
						施設数	病床数	施設数	
川崎	300	2 755	12	2 729	156	5	26	151	132
幸	211	715	4	657	125	7	58	118	82
中原	363	1 752	5	1 687	184	5	65	179	174
高津	239	1 370	5	1 308	137	5	62	132	97
宮前	222	1 901	4	1 874	123	2	27	121	95
多摩	231	841	3	816	137	2	25	135	91
麻生	216	1 859	8	1 787	121	7	72	114	87

資料:平成28年版川崎市統計書「医療施設」

## 地区の概況

### 1. 菅地区

菅地区は、多摩区の北西部に位置し、多摩川に接しているほか地区内を多摩川水系の支流三沢川が流れている。交通面では、JR 南武線稲田堤駅と京王相模原線稲田堤駅があり、都心へのアクセスが便利。菅北浦には、川崎市多摩スポーツセンターがある。

全国で最大の町会組織、菅町会が全域をカバーしており、自立的な活動を展開している。

### 2. 中野島地区

中野島地区は、多摩区の中心から北部に位置し多摩川に接し平坦な地域。地区の中心に JR 南武線中野島駅があり、駅周辺には商店が広がっている。また、様々な団体が参加する大きな音楽イベントがある。地区内は戸建住宅のほか大規模なマンションや市営住宅が立地しており4町会で構成されている。区内でも高齢化率は高い傾向にある。

### 3. 登戸地区

登戸地区は、多摩区の北東部に位置し、多摩川を境に東京都狛江市と接している。JR 南武線登戸駅、小田急線登戸駅、小田急線向ヶ丘遊園駅があることから、交通の便が良く、多摩区総合庁舎や多摩区社会福祉協議会等、公的機関があり、12の町会組織で構成されている。平坦な地形であり、アパートやマンションが多い地域で20代の割合が区内でも高い特徴がある。急速な市街地化により公共施設の整備が追い付かず、土地区画整理事業(施行面積37.2ヘクタール 事業施工期間、昭和63年9月16日～平成38年3月31日)により安全で快適な市街地の形成を進めている。

また、中心部の登戸駅周辺には川崎市立多摩病院(病床数376)と武田病院(病床数140)が位置している。

### 4. 稲田地区

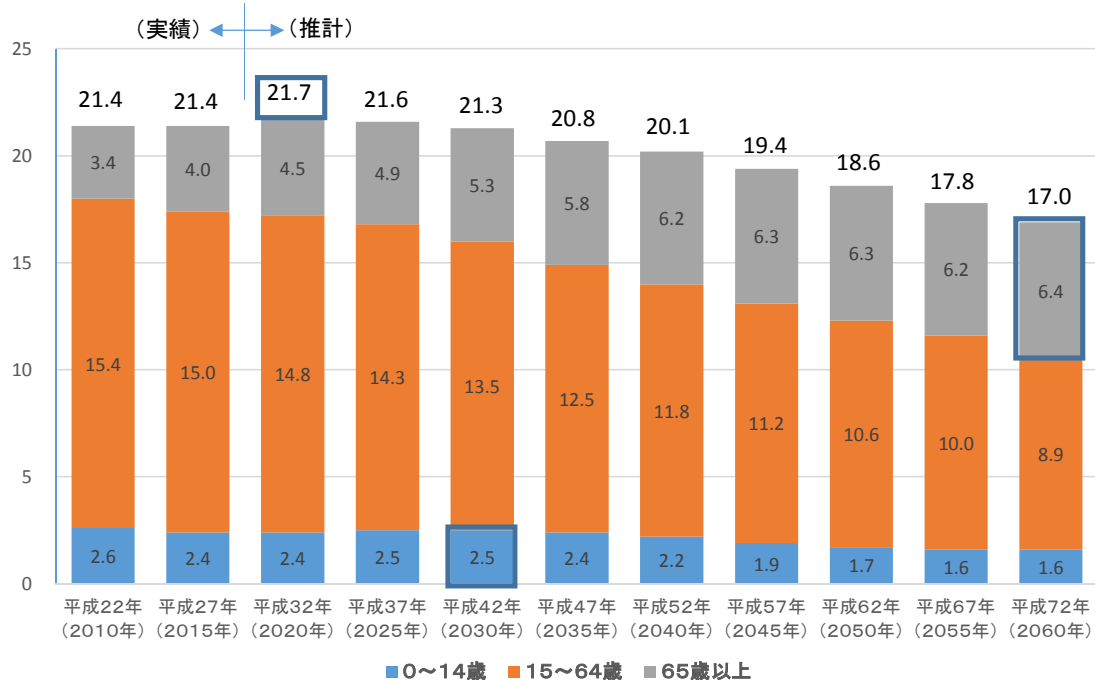
稲田地区は、多摩区の東部に位置し、地区の中心に JR 南武線宿河原駅がある。また、北側は多摩川、東側は高津区、南側は宮前区と接しており、新しいマンション等への若年層の転入者と高齢者が混在した地域で8町会により構成されている。地区内を、桜の名所である「ニヶ領用水」が流れており、多摩川を中心とする情報発信や市民活動の拠点施設である「ニヶ領せせらぎ館」がある。また、平成23年には、「藤子・F・不二雄ミュージアム」がオープン。

### 5. 生田地区

生田地区は、多摩区の中心部から多摩丘陵に広がる南部に位置し、広大な生田緑地の中の「岡本太郎美術館」、「日本民家園」、「かわさき宙と緑の科学館」等の教育・文化施設があり、緑豊かな市民の憩いと学びの場となっている。また、小田急線(生田駅、読売ランド前駅)が地区内を横断し、東三谷は専修大学と明治大学、西生田には日本女子大学がある。

地区は63町会で構成。山坂が多く区域も広いいため、鉄道の駅から離れた地域はバスを中心とした交通網が整備。隣接する麻生区との区境ではコミュニティバスも運行されている。区内では高齢化率が高い町丁が多い一方で、学生など単身世帯向けのアパートも多い。西生田には病床数300の生田病院がある。

# 多摩区将来人口推計



【特徴】	今回推計	前回推計	差異
人口ピーク年	平成32(2020)年	平成27(2015)年	+5年
人口ピーク値	21,7万人	21,4万人	+0,3万人
年少人口 (0~14歳) ピーク	平成42(2030)年 2,5万人	平成22(2010)年 2,6万人	+20年 -0,1万人
0~4歳人口 ピーク	平成32(2020)年 1,0万人	平成22(2010)年 0,9万人	+10年 +0,1万人
生産年齢人口 (15~64歳) ピーク	平成17(2005)年 15,4万人	平成22(2010)年 15,4万人	-5年 ±0万人
老年人口 (65歳以上)	平成72(2060)年 6,4万人	平成67(2055)年 6,9万人	+5年 -0,5万人
75歳以上人口	平成67(2055)年 4,0万人	平成67(2055)年 4,2万人	±0年 -0,2万人

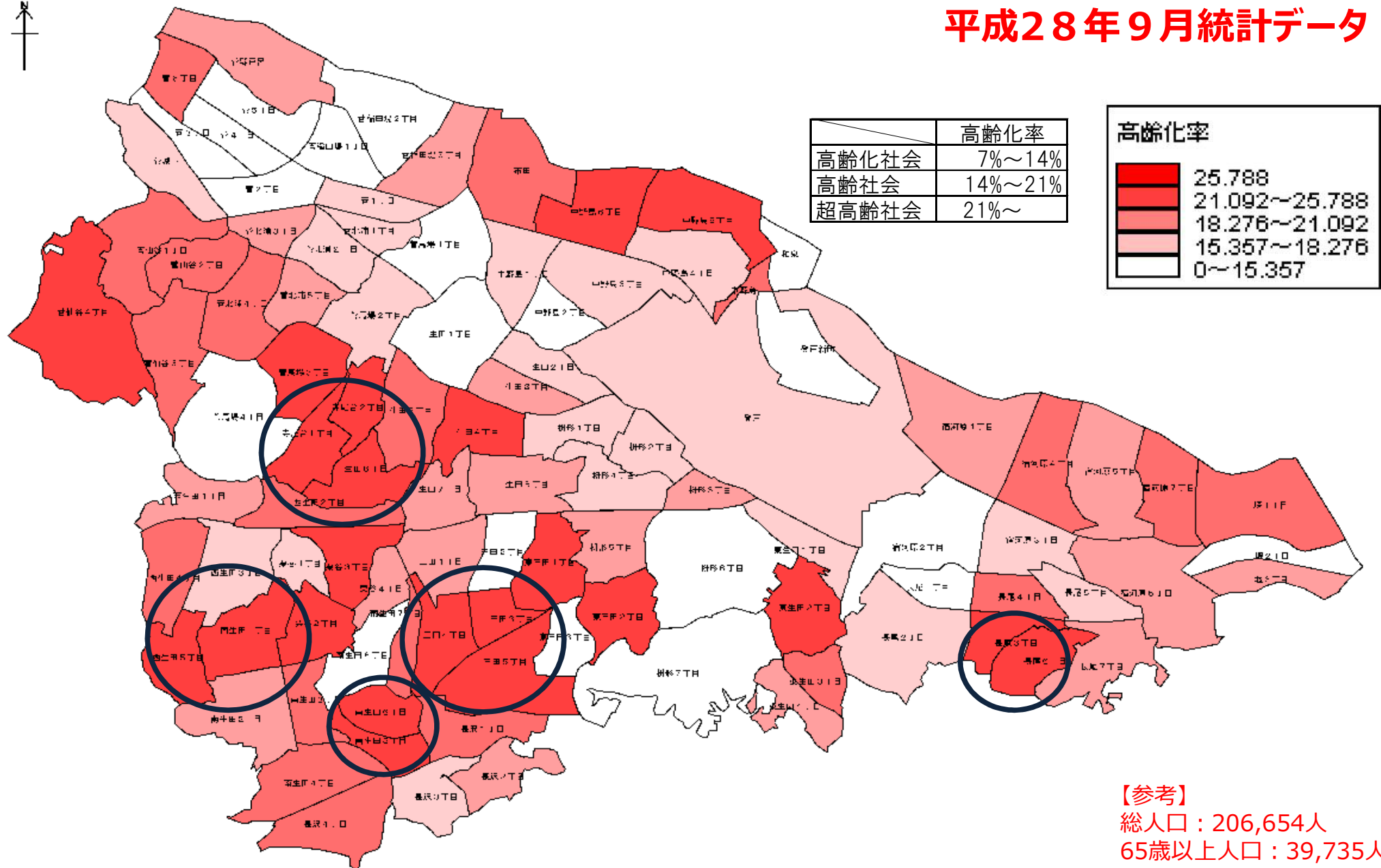
## 人口割合

	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	平成32年 (2020年)	平成37年 (2025年)	平成42年 (2030年)	平成47年 (2035年)	平成52年 (2040年)	平成57年 (2045年)	平成62年 (2050年)	平成67年 (2055年)	平成72年 (2060年)
0~14歳	12.1%	11.1%	11.0%	11.4%	11.9%	11.7%	10.9%	9.9%	9.1%	9.2%	9.7%
(うち0~4歳)	4.3%	3.9%	4.3%	4.4%	4.4%	4.0%	3.5%	3.1%	3.2%	3.4%	3.7%
15~64歳	72.0%	70.2%	68.2%	66.2%	63.2%	60.4%	58.4%	57.7%	56.9%	55.9%	52.7%
65歳以上	15.8%	18.7%	20.8%	22.5%	24.9%	27.9%	30.6%	32.5%	34.0%	34.9%	37.6%
(うち75歳以上)	7.0%	8.8%	11.0%	13.4%	14.5%	15.3%	16.9%	19.2%	21.4%	22.5%	23.3%

- ・市内で最も早く(平成32年)人口のピークを迎える(市全体では平成42年がピーク)
- ・年少人口については平成22年がピークで減少に転じるとされていたが、持ち直して平成42年に再度ピークが来ると想定
- ・生産年齢人口は既にピークを過ぎており、今後は、減少傾向が続いていく
- ・平成37年には超高齢社会の目安とされる高齢人口割合21%を超えることが想定

# 多摩区の地域別高齢化の状況

平成28年9月統計データ



【参考】  
 総人口：206,654人  
 65歳以上人口：39,735人